

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【公表番号】特表2007-507443(P2007-507443A)

【公表日】平成19年3月29日(2007.3.29)

【年通号数】公開・登録公報2007-012

【出願番号】特願2006-530007(P2006-530007)

【国際特許分類】

C 0 7 D 405/14 (2006.01)

A 6 1 K 31/506 (2006.01)

C 0 7 D 409/14 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 11/08 (2006.01)

A 6 1 P 37/08 (2006.01)

A 6 1 P 9/12 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

C 0 7 D 471/04 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 405/14 C S P

A 6 1 K 31/506

C 0 7 D 409/14

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 11/08

A 6 1 P 37/08

A 6 1 P 9/12

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 1/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 37/06

C 0 7 D 471/04 1 1 3

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月23日(2007.8.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

式(I)のピリミジン-2-アミン誘導体は、それ自体公知の方法により、医薬上許容される塩またはN-オキシドへと変換することができる。好ましい塩は、フマル酸、酒石酸、コハク酸または塩酸のような有機酸または無機酸で処理することによって得られる酸付

加塩である。また、酸性基が存在している式(I)のピリミジン - 2 - アミン誘導体は、水酸化ナトリウムまたは水酸化カリウムのようなアルカリ金属水酸化物または有機塩基と反応させることにより、薬理学上許容される塩へと変換することができる。このようにして形成された酸付加塩またはアルカリ付加塩は、それ自体公知の方法を用いて、好適な医薬上許容される対イオンと相互交換可能である。